



ハイアベイラビリティ

- [高可用性クラスタモード, 1 ページ](#)
- [NFS クラスタモードの推奨事項, 2 ページ](#)
- [スタンドアロンHAからの移行, 3 ページ](#)

高可用性クラスタモード

Cisco UCS Central は、ネイティブハイパーバイザを含まない展開にネイティブな高可用性 (H/A) 機能を主に提供します。一般に、使用可能な場合は、ネイティブハイパーバイザを使用します。ネイティブハイパーバイザ H/A が使用できないか、またはアクティブでない場合は、Cisco UCS Central のネイティブ H/A クラスタリングを使用せずに、スタンドアロンモードで Cisco UCS Central を安全に実行できます。

ホストハイパーバイザで H/A がサポートされていない場合は、一般的に、Cisco UCS Central の H/A 機能を利用することがベストプラクティスです。



(注) 通常、Cisco UCS Central H/A とネイティブハイパーバイザを同時に実行することは推奨されません。

Cisco UCS Central はサービスを中断せずに一時停止を引き起こす可能性があることに注意してください。これは、Cisco UCS Central がデータプレーンではなく、コントロール管理プレーンでのみ動作しているためです。Cisco UCS Central に登録されている Cisco UCS ドメインで Cisco UCS Central サーバに対する可視性が失われても、各 Cisco UCS ドメイン内のサービスは正常に機能し続けます。ただし、環境への設定変更には、Cisco UCS Central サーバを復元する必要があります。



(注) Cisco UCS Central がダウンしていて、管理のためにグローバルサービスプロファイルを編集する必要がある場合は、Cisco UCS Manager で編集できるようにグローバルサービスプロファイルをローカライズすることができます。これは、Cisco UCS Central がダウンしているときにサービスプロファイルを編集する必要がある場合にのみ推奨されます。

クラスタ モードの Cisco UCS Central での H/A は、プライマリおよび下位の Cisco UCS Central VM と共有されている 3 番目のクラスタ化ディスクを使用して、Cisco UCS Central の単一の論理インスタンスを参照します。

また、ネイティブ ハイパーバイザの高可用性機能を利用することで、高可用性を実現できます。この場合は、Cisco UCS Central の高可用性機能を使用しないでください。これらは必要ありません。

真の DR 機能を求めている管理者は、すでに存在する可能性があるバックエンド VMDR 機能を活用する必要があります。

次の 2 つのいずれかの方法を使用して、Cisco UCS Central での H/A を実現します。

- 方法 1 :
 - 新しい Cisco UCS Central インスタンスを H/A クラスタとしてインストールする
 - スタンドアロン Cisco UCS Central を H/A クラスタに変換する
- 方法 2 :
 - ネイティブ ハイパーバイザ機能を利用する
 - RDM クラスタリングまたは NFS クラスタリングを利用する

これらのいずれかの方法を使用する前に、『[Installation and Upgrade Guide](#)』を参照してください。

NFS クラスタ モードの推奨事項

NFS クラスタ モードで展開する際は、以下を確認してください。

- 両方の VM が共有ストレージ NFS サーバへのアクセス権を持つ個別の物理ホストにあること
- 両方の VM が同じバージョンの ESX または Hyper-V を実行していること
- 両方の VM が同じバージョンの Cisco UCS Central を実行していること
- 両方の VM が同じサブネット上にあること

クラスタ H/A モードでは、NFS サーバと 40GB 以上のボリュームを設定する必要があります。

- 1 Cisco UCS Central の『[Installation and Upgrade Guide](#)』に従って、NFS ディレクトリをエクスポートします。
- 2 NFS サービスを再起動します。
- 3 NFS サーバディレクトリの Cisco UCS Central VM へのマウントを妨げる可能性がある、NFS 上の任意のファイアウォールルールを削除または変更します。
- 4 Cisco UCS Central のインストール時に、NFS サーバの IP アドレスを指定します。
- 5 NFS サーバのディレクトリを指定します。

- 6 設定スクリプトを使用して、データベースとイメージをプライマリ VM から NFS に移行します。
- 7 選択が完了したら、NFS サーバディレクトリをプライマリ ノードにマウントします。

スタンドアロン HA からの移行

既存のスタンドアロン Cisco UCS Central の実装から H/A 設定に切り替えることができます。また、RDM の実装から NFS ベースの実装に切り替えることもできます。必要な手順の詳細については、『[Installation and Upgrade Guide](#)』を参照してください。

推奨事項

- Cisco UCS Central H/A オプションを検討している場合は、NFS ベースの H/A を使用することを推奨します。
- VM スナップショットの中断、再開、または復元などの機能を使用している場合は、所有権が競合する共有ストレージを作成しないように注意してください。共有ストレージは必ずプライマリ VM にマウントします。プライマリ VM がまだアクティブの間に、セカンダリ VM が所有権を要求すると、クラッシュまたはクラスタ障害を引き起こす可能性があります。
- システムにネイティブハイパーバイザの高可用性機能がある場合は、それを利用して、スタンドアロンモードで Cisco UCS Central の展開のみを行います。
- プライマリ サイトで、すべてのドメインを HA 対応の Cisco UCS Central インスタンスに登録します。
- Cisco UCS Central インターフェイスを介して、Cisco UCS Central とすべての登録済み Cisco UCS Manager インスタンスのスケジュール バックアップを実行します。
- 障害が発生した場合、バックアップを通じて新しいサイトに Cisco UCS Central を復元できます。



(注) Cisco UCS Central はプライマリ データパスにないため、Cisco UCS ドメインの可用性を維持するのに Cisco UCS Central は必要ありません。Cisco UCS Central は、コントロールプレーンからドメインを設定、管理、表示するメカニズムです。

